日本聖公会 神戸教区報
神のおとずれ
2014年
12月号
クリスマス号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
http://www.nskk.org/kobe/

発行責任者
司祭　芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

あなたがたへのしるし

主教　アンデレ　中村　豊

初めて私がホワイトクリスマスを体験したのは、ロンドン北、スタンモアというところでした。相当昔の話です。クリスマスイブの夕方、突然、雪が降り始め、深夜礼拝が行われる頃には三十センチぐらいの積雪となりました。牧師館のドアを開け、そこから見た聖ローレンス教会を眺めますと、それは、子どもの頃に夢で描いたのと同じものでした。

ボクシングの日って何

教会のクリスマス行事がすべて終わり、「ボクシング・デー」とよぶ二十六日の祝日、聖ローレンス教会の牧師が私をロンドン動物園に連れて行ってくれるということです。家族全員が車に乗り込み動き出しましたが、道路には相当雪が積もっており、スピードを落としながら交差点にさしかかったところ、突然、左方向から速度を下げずに車が突っ込んできて、私たちの車の左側前方にぶつかりました。車が右に急回転したところで、私の記憶は途絶えました。数秒たって意識が戻り、前方を見ますと、車のボンネットがまくれ上がってラジエターが壊れ、そこから水蒸気が吹き上がっておりました。どこで頭を打ったのか、たんこぶができた以外に、異常は見受けられません。同乗者もさしたる怪我はありませんでしたので一安心し、動物園をあきらめ、私たちはとぼとぼと歩きながら牧師館まで引き返しました。相手の右パンチが見事、左顔面にヒットして、回転しながら倒れてしまったと形容できる出来事がボクシング・デーにおこりました。

「羊飼いの礼拝」ブロンズィーノ作

本当のことをいえば、この日は拳闘のボクシングとは何ら関係はありません。ボクシングのボックスは箱を意味し、そのなかに貯めたお金を困っている人たちに差し上げる日であったのです。

共にある喜び

年末、神戸大丸の正面玄関前には、「社会鍋」が置かれ、救世軍の人たちが道行く人たちに献金をお願いしております。「社会鍋」は元々「Christmas Kettle（クリスマスケトル）」とよばれ、十九世紀後半、不景気に見舞われたアメリカのサンフランシスコで開始されたものです。

イエスが生まれた時、星のしるしを見て東の国からはるばる砂漠を越えてやってきた占星術の学者たちは、黄金、乳香、没薬を献げました。ベツレヘム郊外で夜、羊の番をしていた羊飼いは、天使のみ告げによって家畜小屋を探し当て、誕生を祝福しました。占星術の学者と羊飼いは、職業や社会的地位が全く異なります。占星術の学者は、お金持ちであったことがわかります。一方、羊飼いたちは誕生日プレゼントとして、野原で天使たちが現れてから誕生の場所に至るまでの物語をマリアとヨセフに語りました。両者に共通する点は、イエスを産んだマリア、ヨセフとは初対面であったことです。

様々な理由で、プレゼントを買うお金のない人たち、誰からもプレゼントを貰えない人たち、プレゼントをあげる相手がいない人たちは、どのような思いでクリスマスを過ごすのでしょうか。占星術の学者が見た、輝く星に象徴される自然現象とか、天使が羊飼いの心に訴えかけてきたその声は、困窮下にある人たちが発するしるしとして捕らえる必要があります。そのサインを憐れみの心でしっかりと受けとめ、その人たちと共に在ることを通して、神が望む平和が実現するのです。

「地には平和、御心に適う人にあれ」（ルカ二章一四節）

（神戸教区主教）

思い出のクリスマス

「共に集い祈ること」

アグネス　檜山　由佳

教会には小学生の頃から通い始め、幼稚園・中高・大学もキリスト教の学校で過ごしてきたので、これまで様々な礼拝に参加してきました。今回はその中でも、中学3年生の時のクリスマスの思い出について、お話ししたいと思います。

その頃、私は松蔭中学校に通っており、中高一貫校で高校受験がなかったため、3年生ですがのびのび過ごしていました。そんな中学3年生のクリスマス、当時、新潟県の赤倉で行われていた、松蔭中高主催のスキーキャンプに参加していました。このスキーキャンプは、私の在学中は毎年、クリスマスを挟んで前期・後期の2部に分けて行われており、中学1年から高校3年までの希望者が松蔭の赤倉寮に宿泊してスキーを楽しむというものでした。私は中学3年の修学旅行がスキー旅行でしたので、その練習をするために友人と参加したのですが、そこでクリスチャンではない友人とクリスマス当日に礼拝をし、お祝いするという貴重な経験ができました。

いつもの教会の礼拝は、ほぼ全員クリスチャンですが、学校行事の礼拝となると、全員がクリスチャンというわけではありません。クリスマス当日を挟むため、むしろクリスチャンの参加率は低かったかもしれません。そんないつもの礼拝堂とは違う雪に閉ざされた赤倉寮で、クリスチャンでない友人とクリスマス礼拝の時を持つこと、キャンドルライトやプレゼント交換をして親睦を深めることは、私にとって、とても新鮮なことでした。

クリスチャンでない方には、礼拝の時間は退屈だったかもしれませんし、学校の礼拝の時間に参加することはあっても、クリスマス当日に礼拝をすることはないでしょう。同じキリスト教の学校に通っていなければ、このキャンプがなければ、このキャンプに参加しなければ、集えなかったメンバーと共に祈ることができたこと。それは一期一会の体験であり、とても楽しい思い出です。松蔭の赤倉寮はなくなるそうですが、この時、赤倉寮でよい思い出をつくることができ、本当に良かったと思っています。

今年も、もうすぐクリスマスがやってきます。普段の礼拝よりも、たくさんの方と共に祈りの時をもつことができます。今年のクリスマスはどんな方々と一緒にお祝いできるのか。どんな祈りの時を持てるのだろうか。そんなことを楽しみに、また、たくさんの方と共にお祝いできることに感謝して、クリスマスの時を迎えたいと思います。

（神戸聖三カエル教会）

クリスマスの香り

ヨシュア　垰田　直文

クリスマスにまつわる思い出を振り返った時、いくつかのシーンが頭の中に甦ります。高校時代は、同じ教会の同世代とのクリスマス祝会が本当に楽しみでした。別に何か特別な催しがあったわけではないのですが、ケーキやおやつをつまみながら楽しい時間を過ごした記憶があります。大学時代は毎年神戸聖ミカエル教会のクリスマス深夜ミサに出席し、夜遅くまで近隣教会の青年会のメンバーがミカエル教会に集まっていました。中高生大会（神戸教区主催の中高生キャンプ）のフリートークの再現さながらに語り（飲み？）明かし、そのまま倒れこむように地下ホールに宿泊して25日の早朝聖餐式にフラフラな状態で出席する、という今から考えると「これぞ若気の至り!!」というような状態が飽きることなく毎年繰り広げられました（笑）

このようにクリスマスの思い出といえば、「特別な時間における、人々との豊かな交わり」を挙げられる方も多くおられると思いますが、私には忘れることのできない「香り」もあります。

私の母教会では、クリスマス・イブの際に、大鍋で作った「ココア」を飲むという習慣がありました（聞くところによると、毎年大量の牛乳の寄贈があったそうです）。当時は信徒有志の方々（ニコラス・クラブ）が深夜ミサまでの時間で教会近隣をキャロリングされておられましたが、その帰りを待っている間、温められたココアの甘い香りが教会の小さなホールに広がり、何とも暖かい雰囲気に包まれていたことを幼心に記憶しています。そして今でもココアを飲むと当時のまだ小さかった教会のクリスマスの事を信徒の方々の事とともに懐かしく思い出します。

時代は移り変わり、教会の構成メンバーである信徒も年々変化していく中で、残念ながらこうした伝統や習慣も少しずつ減ってきているのかもしれません。しかし、何かのきっかけで、いつもは教会の礼拝に集うことの出来ない方や、遠方にお住まいの方が久々にふらっと母教会のクリスマスの礼拝に訪れた際、「ああ、○○○はまだ続いているんだ。懐かしいな」と思っていただけるような伝統は、それぞれの教会が次世代への遺産として、今後も継承していかなくてはならない財産だと言えるでしょう。

（神戸聖三八ネ教会）

英国通信V

司祭 ダビデ 林 和広

英国のアドヴェント

キリスト教には教会暦と呼ばれるカレンダーがありますが、今年は十一月三十日からキリストの誕生を待ち望む降臨節・アドヴェントに入ります。

英国ではクリスマスは一年の中でも大切な祝日で、かなり早い時期からクリスマスへの準備が始まります。そこで、英国の伝統的なアドヴェントの過ごし方をご紹介したいと思います。

まずは、クリスマスに向けての食事の準備です。アドヴェントに入る前の十月の終わり頃からクリスマスケーキを作り始めます。そして、出来上がったケーキに毎日曜日ごとに穴を開けてブランデーなどの酒類を注ぎ込んで染み込ませていきます。クリスマス前には時間をかけてメイン料理を作るため、デザート類は早めに作る必要があるようです。その後、アドヴェント前週の日曜日にクリスマス・プディングを作ります。プディングは牛乳・鶏卵・砂糖を主材料とし、香料を加えて型に入れ、蒸し焼きにした菓子ですが、ビールやウィスキーを注いだプディングを作り保存しておきます。

アドヴェントに入ると、クリスマスまでの一日一日をカウントしていけるようなカレンダーを作ります。昨年のアドヴェントでは教会の日曜学校で子供たちのカレンダーが配られました。チョコレート付きのもので、毎日一個のチョコレートを食べながらカウントしていきます。そして、大きな鶏肉の準備。鳥のお腹の中にハーブやポテトを詰め込む作業やブレットソースを作ったり、スパイスの効いた赤キャベツ料理の準備をします。

食事面以外では日本でもおなじみのクリスマスツリーです。クリスマスの2週間前にツリーを準備します。ツリーのための木を販売しているところもありますが、少しずつ綺麗にしていきます。そして、クリスマス・イヴの深夜、「キリストはこの世の光」と言ってツリーに灯りをつけるのが本来のやり方だそうです。また、アドヴェントの間、食卓には大きくて太い蝋燭を置きます。アドヴェントの期間、毎日この蝋燭に火を灯し、少しずつ減って行く蝋燭を見つめながら、クリスマスを待ち望むのです。英国のクリスマスの備えは長い期間をかけて、じっくりと行なわれていきます。心と体を整えながらイエス・キリストの誕生の喜びを待ち望んでいくのです。良きアドヴェントを過ごすことができますようにお祈りしております。

（立教英国学院チャプレン）

鳩だより《敬称略》

祝聖婚

10月4日（土）
ソフィー　水野　真由子
縫　広　樹
高知聖パウロ教会

ご逝去

9月11日（木）
メ　イ　杉　原　やすの
岡山聖オーガスチン教会

教籍移動

10月5日（日）
マーガレット　太田　清香
北海道教区
聖マーガレット教会より
神戸聖ミカエル教会へ

瀬戸内伝道区

◎福山諸聖徒教会
9月21日（日）14時より、福山諸聖徒教会で「あしなが東日本大震災遺児支援」のチャリティーコンサートが開催された。出演者は、当教会員の眞田真理絵さん、そして、中桐直子さん、山口あけみさん、行武宏波さん、福山スガナミ楽器ゴスペルグループ、なみ☆ゆり。約140名の方々が集まり、感動したという声をたくさん頂き、盛況の下に終了した。

広島伝道区

10月11日（土）、呉信愛教会で広島伝道区会が開催された。また伝道区会後、教区ハラスメント委員会の吉谷かおる委員をお招きして、ハラスメント防止研修会が行われた。様々なハラスメントについて、またそれらのハラスメントがどのように発生しているかの事例を聞きながら、研修を受けた。参加者全員が教会内外において避けては通れないこととして心に留めることができた。

山陰伝道区

◎伝道区信徒修養会
10月18日（土）～19日（日）、大山シーハイル及び米子聖ニコラス教会で山陰伝道区信徒修養会が開催された。講師に沖縄教区の上原榮正主教をお迎えして、「若者たちへの宣教並びに各家庭での信仰の継承」のテーマについて講話を聞いた。上原主教は講話で「今回のテーマは全ての教会の課題であり、まずは自分自身が神様との関係をしっかり持つこと、そして各家庭でも祈りや聖書を共に読むことによって信仰を継承することができるのではないか」と自らの体験を基に話された。参加者は35名。

神戸伝道区

◎パイプオルガンコンサート
10月25日（土）15時から神戸聖ミカエル大聖堂でパイプオルガン奉献1周年記念コンサートが開催された。当日は天候にも恵まれ、約150名の方々がコンサートに訪れた。演奏者は、教区招聘オルガニストの井原由紀姉とヴァイオリニストの原田亮子氏。

大聖堂のパイプオルガンが設置されてちょうど1年。イギリス生まれの大聖堂パイプオルガンは、日本の四季を経験して、日本慣れしたようで、素晴らしい音でコンサートを行うことができた。

1月の教区関係教役者　逝去記念聖餐式

日時　2015年1月8日（木）午前10：30
場所　神戸聖ミカエル大聖堂
司式　主教　中村　豊
説教　司祭　原田　佳城

＊1月の記念逝去教役者＊

1日	司祭	ウィリアム	グレイ亨
3日	司祭	パウロ	辻井熊
3日	司祭		横田金
5日	司祭	ステパノ	福島国五郎
6日	伝道師	ルデア	武田八重
6日	司祭	ヨシュア	小南晶一
10日	司祭	オーガスチン	林普佐夫
11日	宣教師	ジェシー	ヴォールズ
12日	司祭	ヨハネ	信岡修吉
12日	宣教師	ステラ	ダブルデー
15日	司祭	ヨハネ	寺本房吉
15日	司祭		中野忠治
17日	司祭	ヨハネ	八代欽之允
18日	宣教師	エセル	ヒュース
19日	司祭	ペテロ	宇野秀太郎
22日	司祭	オーガスチン	小林貞治
25日	司祭		大原辰三
27日	執事		秋田温人
27日	司祭		松田真澄
27日	伝道師		今村幸

クリスマス ～人がサンタクロースになる日～

執事　リチャード　池　澤　隆　輝

今年もクリスマスがやってきます。サンタクロースなんてとっくに忘れてしまったという人にも、クリスマスといえば、「プレゼント」「ケーキ」「ツリー」といった、心が楽しくなるイメージが浮かんでくるでしょう。サンタクロースはもう、いなくなってしまったかもしれませんが、今では、恋人がサンタクロースになり、あるいは、こんどは自分がサンタクロースになって、子どもたちや大切な人に夢や喜びを与える立場になっている人も多いことでしょう。あるいはそんな自分にとって、家族の存在がなによりのプレゼントであるかもしれません。姿を変え、かたちを変えて、サンタクロースは今も、わたしたちの身近に生きています。

コカ・コーラの戦略?!

そんなサンタクロースのルーツは、北欧のフィンランドと言われています。トナカイに曳かれてソリに乗る姿が、北欧の先住民の生活に似ていたようです。けれど、あの赤い服、ソリとトナカイといった姿そのものは、アメリカで生まれたものだそうで、北欧という出身がむしろ後付けとか。赤い服については、コカ・コーラ社が自社の企業イメージを広めるために、サンタクロースに着せたという都市伝説まであります。サンタクロースのモデルは、ニコラスという聖人ですが、この聖人を祝う習慣をアメリカに持ち込んだのはオランダ移民だったそうです。そして、聖ニコラス自身は、今はイスラム国家となっているトルコに生きていた聖人です。トルコ出身の聖人が、全ヨーロッパで祝われていたのが、宗教改革で廃れ、どういうわけかプロテスタントのオランダでお祭りが残り、アメリカに伝わった後、どういうわけか赤い服を着て、ソリに乗ってトナカイを従えるようになったというわけです。

聖ニコラスが、貧しく奴隷として売られそうになった姉妹を救うために、姉妹の家にこっそり銀貨を投げ入れたのは本当です。伝承が伝わるなかで、銀貨はプレゼントとなり、プレゼントは親から子へ、特にヨーロッパでは子からも親へ贈り合うものへと変わり、アメリカに至って国民の年間消費活動の4分の1を占めるまでになる、一大商業習慣へと変貌しました。

わたしたちのクリスマス

さて、わたしたちの日本はどうでしょう。クリスマスはキリストのご降誕をお祝いするお祭りですから、ヨーロッパではイエス、マリア、ヨセフの聖家族にならって、家族でつつましくお迎えするのが一般的ですが、日本では恋人と過ごす季節となり、クリスマスまでに彼女・彼氏ができるかどうかが若い人びとの関心事となっていないでしょうか。もちろん、日本には日本の受容のしかたがあっていいと思います。「クリスマス」「ケーキ」「ツリー」この言葉で、日本人のわたしたちの心も嬉しくなってきて、踊るような気持ちになれるには違いありません。そこにたとえキリストがいなくても。けれど、クリスマスを教会で過ごすわたしの実感では、イヴの晩の教会にカップルで礼拝に来ている人は少なからずいます。将来のマリアとヨセフが、はじめて踏み入れる教会のイヴ礼拝で、どんなメッセージを受け取って帰っていくのか。その背中を見つめながら、わたしもこの夜、わたしたちの住む世界に小さな子どもの姿で宿られたイエス様を思い浮かべます。このイエス様こそ、神である父がわたしたちにくださる、最高のプレゼントです。願わくば、このプレゼントが、もっとも冷たく寂しい心を抱える人びとへ届くように祈りながら。

（神戸国際大学附属高等学校
チャプレン）

神戸バイブルハウス主催
ポーランド巡礼の旅 10日間
聖ヨハネ・パウロ2世のふるさとを訪ねる旅
参加者募集
2015年5月11日（月）～20日（水）　定員80人
主な訪問先：ワルシャワ、クラクフ、チェンストホーヴァ、アウシュヴィッツ、ザコパネ、ヴァドヴィーツェ など
費用の目安：約298,000円
（二人部屋、燃油付加運賃、各国空港施設使用料、空港税含む）
団　　長：池長　潤　カトリック大司教
副 団 長：中村　豊　主教
問い合わせ　神戸バイブルハウス TEL 078-252-1966

どうぞ、教会のクリスマスへお越しください。